



広島市女性団体連絡会議 広報紙 第37号 2014年3月

目次

- DV防止セミナー（報告） 1、2
- 2014国際女性デーひろしま（報告） 3
- 広島市女性団体連絡会議（ひろしまWENET）からのお知らせ 4

DV防止セミナー（報告）

－ 子どもが体験するDV －



月 日：2月15日

会 場：ゆいぽーと（広島市男女共同参画推進センター）

コーディネーター：

安田女子大学名誉教授 臨床心理士

川瀬 啓子先生

シンポジスト：

広島国際大学医療福祉学部教授

下西 さや子先生

臨床心理士 スクールカウンセラー

坂本 真理子さん

広島市児童相談所相談課長

林 義雄さん



73人の皆様に
ご参加いただきました

両親の間にDVのある家庭で育った子どもたちをどのように支援していけばよいのでしょうか。

今回のこのシンポジウムでは「子どもが体験するDV」をテーマに、コーディネーターの安田女子大学名誉教授 川瀬啓子先生の進行で、3人のシンポジストの方からそれぞれのお立場での現状や課題などを報告していただき、その後、ご参加の皆さんも加わって活発な意見交換が繰り広げられました。

川瀬 啓子先生

子どもたちへの社会的支援体制が網目のように連携していることが大事ですが、現状としてうまくいっていないところもあります。支援を社会的システムのみで補完するのではなく、子どもや相談者が日常的に抱える不安などを語り合える場所が必要です。

相談を受けた場合は、相談者の気持ちを受け止めることが重要であり、DVや虐待は許されざる行為であるという鋭敏な感覚を持つことも私たちや社会には必要と思います。



下西 さや子先生

両親の間でDVが起こっている家庭では子どももその被害に遭っています。親が暴力を受けて怪我をするなどの危険な現場を目の当たりにした子どもは、眠りが浅く激しく泣き、オムツ離れしても再び戻り、爪噛み・指しゃぶりといった行動をします。大人にまとわりつく退行現象や乱暴な言動が目立ち、思い通りにいかないときに暴力をふるう、感情表現が少なく無感動になる傾向もあります。

ケアとしては、被害を受けた子どもの心身の安心と安全を確保することを出発点として、子どもの感情を受け止めたり、暴力についての再教育を行ったりすることが重要です。



坂本 真理子さん

スクールカウンセラーとして学校で子どもたちの話を聞いて、小学生にDVなどの被害による心身の異常が顕著になっているのが分かります。親が夜にいないために食事が摂れない、親がうつ病などで子どもの世話ができないために身なりが整わない、再婚相手からの心身的な暴力を受けたために他者を傷つけたり無気力になったりするといった子どもたちがいるのです。

このような例では、プレイセラピーや、必要に応じて親との面談を行うなどの援助をしています。家庭を密室化させないような取り組みが必要と思います。



林 義雄さん

DVのある家庭における児童虐待の通報が増えていると思います。身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト・性的虐待などがあり、児童相談所として見守りや援助、訪問支援、一時保護者による親子分離や心理検査などを行っています。虐待の疑いがある場合は、迷わず通報してください。

参加者の皆さん

- ・DV家庭の子どもが祖父母に引き取られ育てられた場合、本当の親は離れて暮らしているということをどのように子どもに伝えたいのでしょうか。
 - ・DV被害者が辛くて家から出て離婚したいと思っても、それができない場合、家から出て行かせるにはどのようなアドバイスをすればよいですか。
 - ・DV家庭の子どもの心理的な健康相談ができる場があればいいと思います。
 - ・関係機関同士が連携して安全・安心を確保するようにお願いします。
- など多数のご意見やご質問をいただきました。



シンポジストの方々や参加者の皆さんからのお話を聞いて、DV家庭で育った子どもたちにどんな影響が起きているのか、そしてどんな支援ができるのかを学ぶことができました。

両親の間のDVによって心に傷を負い、孤立し、複雑な状況のなかで精一杯生きている子どもたち。その子どもたちを理解し、子どもたちの未来のために、それぞれの地域で問題を抱えながら子どもたちをお世話されている方々の様子がうかがえます。今日の学びが今後の活動の参考になることを願いつつ、DV防止セミナーの必要性をあらためて感じました。

(報告:啓発部会 山本紀子)

2014 国際女性デーひろしま (報告)

原子力災害から3年、福島の子どもたちは… ～ 食と未来を考える ～

3月2日にゆいぽーと(広島市男女共同参画推進センター)で「2014国際女性デーひろしま」が開催され、151人の参加がありました。

3月8日の国際女性デーは世界の女性が「パンと権利と平和」のために一斉に立ちあがる日です。20世紀初頭、アメリカの女性たちがパンと参政権を求めて起こした行動に学び、1910年第1次世界大戦を前に、世界の女性行動日として創立されました。「国際女性デーひろしま」の集会は広島市とともに開催し始めて今年で11回目になります。



満員の会場で挨拶をされる松井 一寛 広島市長

福島大学行政政策学類准教授 西崎伸子先生から「福島の子育て環境」と題した講演がありました。東京電力福島第一原子力発電所の事故から3年を経てもなお福島での子育て環境は非日常で、放射性物質への根強い不安があることを知りました。深刻な話でしたが、西崎先生の誠実な生き方に希望を感じるとともに、放射能被害は、私たちみんなで考えなくてはならない問題で、福島を孤立させてはいけないと強く思いました。

講演の後、12のグループに分かれて原発、放射能、福島とのかかわりについて意見交流をしました。



西崎 伸子先生

また、会場では、「子どもたちに手渡す未来を考えましょう」のテーマで61の国と地域から届いた234通のメッセージ、「あなたの声を聞かせて」(福島応援メッセージ)、福島の子育て環境・支援の紹介、関連企画として上映する映画「アンコール!!」のパネル展示がありました。



パネル展示



パレードの様



集会後、参加者はミモザの花やプラカードを手に、「安心して暮らせる未来を子どもたちに手渡そう」「女性議員をもっと増やそう」などとアピールしながら、鯉城通りや本通り商店街を歩いて元安橋まで元気よくパレードしました。

(報告:吉田真理子)

「第2次広島市男女共同参画基本計画」学習会

昨年9月の広島市男女共同参画審議会で、「第2次広島市男女共同参画基本計画（計画期間2011～2020年度）」の2012年度における推進状況の報告がありました。これを受け、ひろしまWENETでは、広島市市民局人権啓発部長 松出由美さんを囲んで、この基本計画についての学習会を開催しました。学習会の開催日となった昨年10月25日、ゆいぽーと（広島市男女共同参画推進センター）の会場には、各団体から17人が集まりました。同男女共同参画課長 今富雅夫さんから、基本目標に対する施策の達成状況についての説明を聞いた後、仕事と生活の調和・DV相談などについての質問や意見交換が行われ、これからの男女共同参画の在り方を考える機会となりました。

（報告:学習部会 柳田裕美）

ゆいぽーとまつり

2月22日～23日にゆいぽーと（広島市男女共同参画推進センター）で開催されました「ゆいぽーとまつり」で、登録団体協議会の一員として、ひろしまWENETも展示に参加しました。館内の廊下で、本紙の1995年3月発行の創刊号と1997年11月発行の第6号を展示したほか、当時最新の第36号を配布しました。

（報告:広報部会 藤永雅子）



「ゆいぽーとまつり」での展示の様様

広島市議会の傍聴

3月3日に参加者14名で広島市議会の厚生関係の予算特別委員会を傍聴しました。介護保険制度の見直しや今後の高齢者施策などについての1問1答のやり取りは、傍聴している私たちにも大変分かりやすく、身近な内容でしたので、身を乗り出して聞きましたが、資料を読むだけの答弁は理解しにくく、女性議員や女性管理職が少ないのも気になりました。しかし、全体的に大いに参考になる事柄ばかりで、多くの有益な情報を得ることができました。

（報告:啓発部会 山本紀子）

広島市女性団体連絡会議（ひろしまWENET）からのお知らせ

よろしくお願ひします



マツダスタジアム

ピンクリボン de カーブ

ピンクリボン de カーブが今年も開催されます。
 日 時：5月25日（日）午後6時試合開始
 内 容：埼玉西武ライオンズ戦
 会 場：マツダスタジアム
 詳細は、プレストケア・ピンクリボンキャンペーン in 広島実行委員会のホームページをご覧ください。



2013年度 広島市男女共同参画標語 最優秀賞

夢を追う 後ろ姿に 男女なし 基町高等学校1年 森 一晃さん

WENET ニュース第37号 2014年3月

発行者 広島市女性団体連絡会議（広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付）

責任者 貴田 月美